

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	経済学研究科
大項目	4 教育研究組織 (研究科)
中項目	
小項目	4.0.1 大学の学部・学科・研究科・専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか。
要素	教育研究組織の編制原理 理念・目的との適合性 学術の進展や社会の要請との適合性 (KG1) 研究活動の状況
小項目	4.0.2 教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 自己点検・評価 (2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 「教育改革推進委員会」の下にある大学院教育部会を充実させて、大学院の活性化のための新たな施策の立案と検討を行っていく。	→学部・大学院にまたがる一貫教育部会の設置の検討と具体化。	D	C	/	/	/

☆

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目 4.0.1	4.0.1 大学の学部・学科・研究科・専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか。 (説明) 大学院科目に幅をもたせ、学部生に大学院につながる高度な教育を提供するために、大学院教育部会において学部専門教育委員会と連携し、学部・大学院間の乗り入れ科目の検討を開始した。
☆ 小項目 4.0.2	4.0.2 教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。 (検証の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→→→→→→→ → ● 検証している ○ 検証していない (説明) 経済学研究科委員会および研究科委員長等、執行部内で絶えず実施している。
その他	

《評価指標データ》

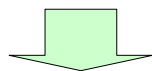
- 博士研究員 (PD) の受入状況
- 日本学術振興会特別研究員 (DC、PD) の受入人数
- 研究誌発行状況
- 提携大学との研究誌等の交流状況 (送付・受入)
- 専任教員の発表論文数【基本的な指標データ】
- 学術賞の受賞状況【大学基礎データ】
- 学会誌・国際学会議事録等に掲載された学術研究論文数
- 21世紀COEプログラムの採択状況
- 文部科学省私立大学学術研究高度化推進事業の採択状況
- 文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業採択状況【基本的な基礎データ】
- 特定プロジェクト研究センター制度の活用状況
- 国際学会でのゲストスピーカーの延べ回数

☆ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(1)】効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目4.0.1	
★小項目4.0.2	
その他	



【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

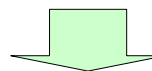
注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目4.0.1	
★小項目4.0.2	
その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(2)】改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目4.0.1	
★小項目4.0.2	
その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目4.0.1	
★小項目4.0.2	
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★その他 (自由記述)	
----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価専門委員会の評価>

【学外委員】

○研究科における教育の実質化は重要な課題であり、大学院教育部会における前向きな取組みが望まれます。

【学内委員】

○4.0.1の現状の説明は、改善の方策に関わるものと考えられます。そちらで記述した方が収まりが良いのではないのでしょうか。

○学部・大学院にまたがる「一貫教育部会」の設置もされていないこと等から、2010年度評価がDでした。これに対し、2011年度は、「大学院教育部会」において「学部専門教育委員会と連携し、学部・大学院間の乗り入れ科目の検討」が開始され、具体化の一步として評価されます。

○学部と大学院間の乗り入れ科目の検討は、小項目「6.1.4」教育課程の編成・実施方針の適切性についての定期的検証、の内容にもなり評価できることです。しかし、この項目に適切に応えるためには、現状においての大まかな編成原理などを示していただければと思います。

○乗り入れ科目の検討は、一貫教育部会での検討ではないのでしょうか。未設置のため、大学院教育部会と学部専門教育委員会の連携での検討になったのでしょうか。

【大学基準協会:評価に際し留意すべき事項】

○小項目4.0.1

基盤評価:なし

達成度評価:「教育研究組織が、当該大学、学部・研究科等の理念・目的を実現するためにふさわしいものである」

○小項目4.0.2

基盤評価:なし

達成度評価:「検証を実施する体制を整備し、責任を明確にするなどしたうえで、教育研究組織の適切性について、恒常的かつ適切に検証を行っている。」

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★(小項目4.0.1(説明)の補足)大学院科目に幅をもたせ、学部生に大学院につながる高度な教育を提供するために、大学院教育部会において学部専門教育委員会と連携し、組織横断的な態勢で、学部・大学院間の乗り入れ科目の検討を開始した。